



# くものいと

KU MO NO I TO

No. 46

関西クモ研究会

20 September 2012

# くものいと No. 46

September 2012

## 目次

雪上のクモ イツツゲモ -山門水源の森にて-	伊藤 博	1
兵庫県内の球場周辺及び県立高校敷地内のクモ類 (その1)	山本 一幸	4
龍谷の森で採集された滋賀県新記録種		
	吉田 真・社本 吉正・小池 直樹・原口 岳	12
山門水源の森のクモ類	吉田 真・熊田 憲一・西川 喜朗・黒田 あき	15
スリランカにクモ相撲習俗はない	関根 幹夫	22
ツシマトリノフンダマシ 神戸市で発見!		23
滋賀県名神高速菩提寺 PA でセアカゴケグモを採集	西川 喜朗	24
関西クモ研究会 採集会の記録 (宝ヶ池公園)		25
池田勇介さんを偲ぶ		
池田勇介君の思い出	船曳 和代	30
勇介さんのこと	原口 岳	32
ゆーすけさんを偲ぶ	小池 直樹	33
池田勇介くんの思い出	黒田 あき	35
今, 秋風を想像しながら勇介さんを想っています (その1)	田中 穂積	36
今, 秋風を想像しながら勇介さんを想っています (その2)	田中 和代	37
勇介くん, 熊本での思い出	加村 隆英	38
2011 年度例会の記録・2011 年度会計報告		40

くものいと 第46号

2012年9月20日 発行

関西クモ研究会

事務局: 567-8502 大阪府茨木市西安威 2-1-15

追手門学院大学 生物学研究室

会 長: 田中穂積 庶務幹事: 山野忠清

会計幹事: 吉田 真 編集幹事: 加村隆英

顧 問: 西川喜朗・船曳和代

会計監査: 関根幹夫

## 雪上のクモ イツツグモ <sup>やまかど</sup> -山門水源の森にて-

伊藤 博

2012年の元旦、「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」の恒例行事となっている「守護岩詣」に出かけました。「守護岩」とは、山門水源の森の頂上付近（標高約520m）にある高さ約80cm、周囲約270cmの花崗岩です。頂上付近は比較的平坦で、ブナを中心とする雑木林となっています。頂上としての目立つものがないところですが、最高地点にご神体として祭り上げるのに手ごろな岩が見つかり、この岩を「会」の創始者が保全活動の発展と保全に対する決意の象徴としてシンボル化したものです。この「初詣」は2004年から会員や一般の人たちとともに続けられている年頭の重要な行事です。この岩には、会員手作りの注連縄がかけられ、保全作業の順調な進捗と安全を願って毎年元旦にかけ替えを行っているものです。

当地は滋賀県長浜市の最北部に位置し、福井県との県境に近いこともあって、雪の深いところです。元旦には多い時で2mを超えることもあります。今年はやや少なく、約1mでした。この森の中に約5.6haの湿原があり、普段は生態系保全のため立ち入りできません。しかし、積雪期はほとんど影響がないことから、調査を兼ねて入ることがあります。今年も約90cmの積雪があり、縦断することとなりました。今年と比較的気温が高く（11時頃で3.5℃）雪が緩んでいたため、深みへの水没を避けながらの歩行となりました。その時、前を歩いていた会員が「伊藤さん、クモが歩いている！」と言って声をかけてくれました。動きは鈍いものの、まぎれもなく雪の上を歩くクモでした。早速撮影したのが図1(左)の写真です。クモ観察の初心者故当然種名はわからず、また



図1. 雪上を歩くイツツグモ (左) と発見場所の当日の様子 (右) (2012年1月1日).

「雪の中でクモが出ることはないだろう」という初心者の浅はかな常識のため標本採取の準備もなく、やむなく写真撮影のみとなりました。帰宅後、吉田先生に新年のご挨拶を兼ねてメールでお伺いしたところ、「種名はイツツグモ。冬季はヒノキやスギの樹皮の下で越冬する」と教えていただきました。

図鑑や参考書を見ると、同様な記述がありましたが、クモを見つけた時の様子は以下のように、図鑑の記述とは全く異なる状況でした。

- ①見つけた場所：山門湿原内の雪面上を歩行していました。
- ②周囲の樹木の様子：図1(右)や図2でも明らかなように、すぐ近くにはヒノキやスギなどはなく、湿原に生えるミヤマウメモドキやハンノキ、ノリウツギなどが点在しているのみです。ただ、観察コースの図からもわかるように、この地点から数十m離れた付近はヒノキの植林帯となっています。
- ③天候：晴れ、ほぼ無風、気温3.5℃
- ④雪面の状態：積雪量約90cm。凍結しておらず、カンジキ等を使用しなければ沈む程度に緩んでいました。おそらく、最低気温は氷点下にはなっていないと推測されます。



図2. イツツグモ発見地点

以上の様子から、なぜこの時期に雪面を歩いていたのか推測してみました。

- ①寒さのためヒノキ植林帯の樹皮下に潜り込んだものの、比較的暖かい気温に誘われて這い出し、風に乗って湿原の雪面上に落ちた。
- ②湿原の中の樹木の「穴」のような場所で寒さをしのいでいたが、暖かさにつられて這い出してきた。
- ③もともと寒さに強く、天候の落ち着いたときに出てきた。

初心者にはこれ以上のことは推測できず、正解があるのかどうかもわかりませんが、経験者の皆様のコメントをいただければ大変ありがたく思います。それにしても餌の少ないこんな時期になぜ出てくるのでしょうか。フユシヤクというガやトビムシなどを見かけることはありますが、樹皮下に潜む虫を探す方が効率的だと思います。意図的なのか、事故なのか興味深いところです。

この時すぐに、近くのヒノキ林で個体を探せばよかったのにとも思いましたが、イツツグモとの認識や性質を理解できる知識がなく、また「守護岩詣」という先の行事があったため、そこまで考えが及びませんでした。今後も折に触れて雪の森の中に入る予定ですので、新たな目で追いかけてみようと考えています。

なお、この森におけるクモの調査は始まったばかりです。個人的に写真を撮ったりしていたのですが、組織的な調査活動は2011年7月12日、吉田先生を初めとする「関西クモ研究会」の皆様のご協力により標本採集を行っていただいたのが最初です。里山で、中には湿原もあり、雪深い地域でもあっているいろんなクモの生態が観察できるのではないかと期待しております。今後も皆様からご指導をいただきながら、観察・調査を継続していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

## 兵庫県内の球場周辺及び県立高校敷地内のクモ類(その1)

山本 一幸

### はじめに

長男が兵庫県立浜坂高等学校に入学し、野球部に入部してから練習試合などで県南部の球場や県立高校に行く機会が増えた。本来なら保護者として応援してやらなければならないところであるが、何分にも野球にあまり興味がなく、退屈な時間を過ごしていた。そこで、球場周辺や高校の敷地内のクモを調べてみることを思いついた。その結果、兵庫県内のクモ相について幾つかの知見を得ることができたので、ここに報告する。

### 方法

当初は採集用具を持ち合わせていなかったためクモは採集せず、目撃確認だけで一部をデジタルカメラで記録した。その後、アルコール入りのサンプルビンを携帯するようにし、採集したクモを液浸標本にした。採集はすべて手で捕まえた。

2011年9月から11月までに5回、5地点の調査を実施している。

### 結果

#### (1) 調査場所及び期日

調査した5地点の場所(図1)及び調査日は次の通りであり、地図上及びリストのデータには冒頭の略号で示す。

Be: 尼崎市記念公園ベイコム球場周辺

(尼崎市西長洲町1丁目4-1)

調査日: 2011年9月17日

He: 県立姫路東高等学校(姫路市本町

68-70)及び姫路城公園周辺

調査日: 2011年9月24日

Yu: 県立夢前高等学校

(姫路市夢前町前之床643)敷地内

調査日: 2011年10月2日

Ue: 植村直己記念スポーツ公園野球場

(豊岡市日高町野829)周辺

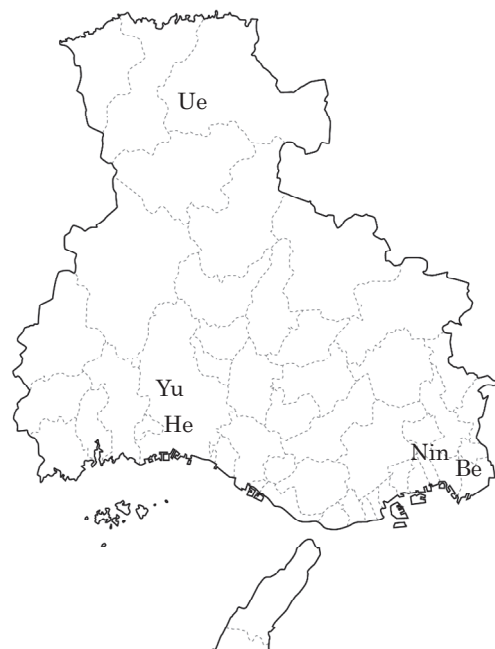


図1. 調査地.

調査日：2011年10月9日

Nin：県立西宮北高等学校

(西宮市苦楽園二番町16-80) 敷地内及び周辺

調査日：2011年11月23日

(2) リスト

目撃及び採集したクモのリストは以下の通りである。データは調査場所(略号)、採集(目撃)した個体数、雌雄の明記は成熟個体のみを示している(未成熟個体は「y」を付記)。科の配列は谷川(2011)に準拠した。

**ジグモ科 Atypidae**

1. ジグモ *Atypus karschi* Dönitz 1887

Nin：1♀.

2. ワスレナグモ *Calommata signata* Karsch 1879

He：1♀(住居3個確認)；Yu：1♀(住居5個確認)。

**ユウレイグモ科 Pholcidae**

3. イエユウレイグモ *Pholcus phalangioides* (Fuesslin 1775)

Yu：1♀.

**エンマグモ科 Segestriidae**

4. ミヤグモ *Ariadna lateralis* Karsch 1881

Yu：1♀.

**チリグモ科 Oecobiidae**

5. チリグモ *Oecobius navus* Blackwell 1859

He：2(多数確認)；Nin：2♀.

6. ヒラタグモ *Uroctea compactilis* L. Koch 1878

Yu：1y. Nin：1♀.

**ヒメグモ科 Theridiidae**

7. オナガグモ *Ariamnes cylindrogaster* (Simon 1888)

Yu：1y.

8. カグヤヒメグモ *Parasteatoda culicivora* (Bösenberg & Strand 1906)

Yu：1♀.

9. ニホンヒメグモ *Parasteatoda japonica* (Bösenberg & Strand 1906)

Yu：1♀；Nin：1♀, 1y.

10. オオツリガネヒメグモ *Parasteatoda tobulata* (Levi 1980)

Yu：3♀.

11. オオヒメグモ *Parasteatoda tepidariorum* (C. L. Koch 1841)  
Be : 3♀ (目撃) ; He : 4♀, 2y (目撃) ; Yu : 1♀ ; Ue : 1y ; Nin : 3♀, 5y.
12. ムナボシヒメグモ *Platnickina sterninotata* (Bösenberg & Strand 1906)  
Nin : 1y.
13. クロマルイソウロウグモ *Spheropistha melanosoma* Yaginuma 1957  
Yu : 1♀, 1y.
14. ハンゲツオスナキグモ *Steatoda cingulata* (Thorell 1890)  
Be : 1y (目撃) ; Nin : 1♀.
15. マダラヒメグモ *Steatoda triangulosa* (Walckenaer 1802)  
Yu : 1♀.

#### サラグモ科 **Linyphiidae**

16. クスミサラグモ *Nerienne fusca* (Oi 1960)  
Nin : 1y.
17. アシナガサラグモ *Nerienne longipedella* (Bösenberg & Strand 1906)  
Yu : 1♀.
18. ヘリジロサラグモ *Nerienne oidedicata* van Helsdingen 1969  
Nin : 1y.
19. セスジアカムネグモ *Ummeliata insecticeps* (Bösenberg & Strand 1906)  
Yu : 1♂.

#### アシナガグモ科 **Tetragnathidae**

20. チュウガタシロカネグモ *Leucauge blanda* (L. Koch 1878)  
Yu : 1♂, 3♀ ; Nin : 1♀.
21. オオドヨウグモ属の一種 *Metleucauge* sp.  
Ue : 1y.
22. アシナガグモ属の一種 *Tetragnatha* sp.  
Ue : 1y.

#### ジョロウグモ科 **Nephilidae**

23. ジョロウグモ *Nephila clavata* L.Koch 1878  
He : 2♀ (目撃) ; Yu : 1♀ ; Nin : 1♀.

#### コガネグモ科 **Araneidae**

24. ビジョオニグモ *Araneus mitificus* (Simon 1886)  
Yu : 1♀.



25. カラオニグモ *Araneus tsurusakii* Tanikawa 2001  
Nin : 1y.
26. ナガコガネグモ *Argiope bruennichi* (Scopoli 1772)  
Yu : 1♀.
27. コガタコガネグモ *Argiope minuta* Karsch 1879  
Yu : 1♀ ; Ue : 1♀.
28. コガネグモ属の一種 *Argiope* sp.  
Yu : 1y.
29. ギンメツキゴミグモ *Cyclosa argenteoalba* Bösenberg & Strand  
1906  
Yu : 1♀ ; Nin : 2y.
30. カラスゴミグモ *Cyclosa atrata* Bösenberg & Strand 1906  
Yu : 1♀.
31. ゴミグモ *Cyclosa octotuberculata* Karsch 1879  
Yu : 2y ; Ue : 2y ; Nin : 1y.
32. ヨツデゴミグモ *Cyclosa sedeculata* Karsch 1879  
Ue : 1♀, 2y.
33. ゴミグモ属の一種 *Cyclosa* sp.  
Nin : 1y.
34. ワキグロサツマノミダマシ *Neoscona melloteei* (Simon 1895)  
Yu : 1♀.
35. イエオニグモ *Neoscona nautica* (L. Koch 1875)  
He : 1♀ (目撃) ; Yu : 1♀ ; Ue : 1♀.
36. コゲチャオニグモ *Neoscona punctigera* (Doleshall 1857)  
Yu : 1♀.
37. サツマノミダマシ *Neoscona scylloides* (Bösenberg & Strand 1906)  
Ue : 1♀.
38. ズグロオニグモ *Yaginomia sia* (Strand 1906)  
Ue : 1y.
- コモリグモ科 Lycosidae**
39. ウツキコモリグモ *Pardosa astrigera* L. Koch 1878  
Nin : 1y.
- キシダグモ科 Pisauridae**
40. アズマキシダグモ *Pisaura lama* Bösenberg & Strand 1906  
Ue : 1y.

**タナグモ科 Agelenidae**

41. クサグモ *Agelena silvatica* Oliger 1983  
Ue : 2♀.
42. コクサグモ *Allagelena opulenta* (L. Koch 1878)  
Yu : 2♂, 4♀ ; Ue : 3♀ ; Nin : 1♀.
43. シモフリヤチグモ *Iwogumoa insidiosa* (L. Koch 1878)  
Yu : 1♂ ; Nin : 2♀.
44. シモフリヤチグモ属の一種 *Iwogumoa* sp.  
Yu : 2y ; Nin : 6y.
45. メガネヤチグモ *Pireneitega luctuosa* (L. Koch 1878)  
Nin : 1♀.

**ウシオグモ科 Desidae**

46. クロガケジグモ *Badumna insignis* (L. Koch 1872)  
Be : 1♀, 1y (目撃) ; Yu : 2♀, 2y.

**ハグモ科 Dictynidae**

47. ナシジカレハグモ *Brommella punctosparsa* (Oi 1957)  
Nin : 1♂, 1♀.
48. ネコハグモ *Dictyna felis* Bösenberg & Strand 1906  
Yu : 2♂, 2♀, 1y ; Ue : 1♀ ; Nin : 2♀.

**ヤマトガケジグモ科 Titanoecidae**

49. ヤマトガケジグモ *Nurscia albofasciata* (Strand 1907)  
Yu : 1y.

**ヒトエグモ科 Trochanteriidae**

50. ヒトエグモ *Plator nipponicus* (Kishida 1914)  
He : 1y (図 2).

**ワシグモ科 Gnaphosidae**

51. ヒトオビトンビグモ属の一種 *Hitobia* sp.  
Ue : 1y.

**カニグモ科 Thomisidae**

52. ホンクロボシカニグモ *Xysticus atrimaculatus* Bösenberg & Strand  
1906  
Ue : 1♂.

**ハエトリグモ科 Salticidae**

53. マミジロハエトリ *Evarcha albaria* (L. Koch 1878)  
Ue : 1♂.

54. チャスジハエトリ *Plexippus paykulli* (Audouin 1826)

Be : 1♂, 1♀ (目撃) (図 3).

55. アオオビハエトリ *Siler cupreus* Simon 1889

Yu : 1y.

56. ヒトリコゲチャハエトリ *Sitticus avocator* (O. P.-Cambridge 1885)

Yu : 1♀.

57. ナミハエトリグモ属の一種 *Sitticus* sp.

Nin : 3y.



図 2. ヒトエグモ.



図 3. チャスジハエトリ♂.

## 考察

### (1) 兵庫県新記録

今回得られたクモ類は 19 科 57 種を記録し、未成熟で属までしか同定できないものを除いた既知種だけでは 51 種となる。新海ら (2010) による「県別・島別種名リスト」の兵庫県のデータと対照すると、ヒメグモ科クロマルイソウロウグモ、コガネグモ科カラオニグモ、カニグモ科ホンクロボシカニグモ、ハエトリグモ科ヒトリコゲチャハエトリの 4 種が新記録となる。ヒメグモ科マダラヒメグモやチリグモ科チリグモもデータに無いが、関西クモ研究会 (2011) の尼崎市都市緑化植物園 (尼崎市東塚口町) で行われた採集会で採集されており、この 2 種については今までに記録されていなかっただけで、県内に広く分布していると思われる。

### (2) 絶滅危惧種

兵庫県 (2003) が絶滅危惧生物としてリストアップした (兵庫県版レッドデータ) 中に、今回得られたクモ類において、ジグモ科ワスレナグモが B ランク (絶滅危惧 II 類) に、ヒトエグモ科ヒトエグモが A ランク (絶滅危惧 I 種) に該当する。

ワスレナグモは環境省のカテゴリーでも“準絶滅危惧種”に区分されており、

近県では鳥取県や岡山県, 京都府でもリストに挙がっている. 県内のこれまでの記録は豊岡市日高町(本庄 1994)や竹野町(笹岡 2006), 神戸市(金野 1994)があり, 姫路市は今回初記録となる. 姫路東高校ではグラウンド脇のベンチ下などで, 夢前高校では中庭の芝生(図 4)や花壇に生息しており, 巣穴が一つ見つかり, 注意して近くを探すと複数発見できた. 個体数は少ないが, 時間をかけて探せば今後も新しい産地が見つかる可能性がある.



図 4. 芝生に作られたワスレナグモの住居.

ヒトエグモの記録は全国的にも稀で, 京都府や大阪府, 奈良県など(新海ら 2010), 近畿地方が主な既知産地(他に静岡県)となっている. 兵庫県内でも但馬地方に分布するが(兵庫県 2003), 県南部で採集したのは今回が初めてである. 姫路東高校周辺の市街地を散策中に, お寺の漆喰の塀に居たのを発見した.

### (3) 外来種

オーストラリア原産のヒメグモ科セアカゴケグモ *Latrodectus hasselti* Thorell, 1870 の日本初記録は, 西川(1995)によれば 1995 年 9 月に大阪府で採集されている. 毒性の強いクモとして大騒ぎになり, 危険生物として注意をうながし駆除を呼び掛けたが, その後も分布は拡大し, 兵庫県では 1997 年に西宮市で初めて見つかった(清水ら 2005). 分布は依然拡大しており, 現在では近畿 2 府 4 県と群馬県, 愛知県, 山口県ですでに記録がある(新海ら 2010). 尼崎市や西宮市で生息が確認されているため, ベイコム球場周辺や西宮北高校では特に注意して, 居そうな場所を探したが発見できなかった. 駆除の効果が, 少しは分布の抑止力として働いているように思えるが, 油断できない状況に変わりない.

同じヒメグモ科のマダラヒメグモも近年の外来種で, 1982 年に名古屋港で最初に発見された(新海 2006). 現在は本州の北は秋田県まで, 九州は長崎県や熊本県まで分布が広がっている(新海ら 2010). 今回は夢前高校で採集することができた. また, 2011 年 11 月 3 日に豊岡市竹野町の海岸でも採集しており(山本 印刷中), すでに県内に広く分布しているものと思われる.

ウシオグモ科クロガケジグモもセアカゴケグモと同じくオーストラリア原産で, 日本で最初の発見地も大阪府である. 最初の記録は 1963 年のことで, その後も分布範囲は拡大する一方で 2006 年には鳥取県の鳥取大学構内で生息が確

認されており (鶴崎 2007), 現在は中部地方以南の本州, 四国や九州でも記録がある (新海ら 2010). 兵庫県内では 1990 年に, すでに日本海側の豊岡市日高町で確認している (山本 1992). 今回, ベイコム球場周辺では多数生息しており, 人工の構造物以外にカイズカイブキなどの樹木の枝先に網を張っていた. また, 夢前高校では 1 階教室のサッシの窓枠などに多くの網が見られた. しかし, 他の調査地では生息を確認していない.

## おわりに

球場や県立高校の構内は比較的人の管理が行き届いている場所であり, 特に都市部では自然度も低く, 生息するクモも限られており, 人為的分布により外来種などが入り込みやすい環境にあると思われた. しかし, 立地条件によってはワスレナグモのような稀少種が生息していたりして, 今までにあまり調べられていない場所だけに面白そうである.

長男も今年是最終学年となり, 部活も夏の全国大会にむけて練習試合などで春からまた忙しくなり, 県下の球場や高校などへ応援や生徒の送迎で出かける機会も多くなる. これをいい機会と受け止め, 次は春から夏の季節, 兵庫県内の球場周辺や高校の敷地に生息するクモを調べてみるつもりである.

## 参考文献・資料

- 小野展嗣 編 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会, 神奈川県.  
 金野 晋 1994. ワスレナグモの記録. くものいと, (15): 20.  
 関西クモ研究会 2011. 採集会の記録(尼崎市都市緑化植物園). くものいと, (45): 21-24.  
 笹岡文雄 2006. 但馬地方のワスレナグモ. Kishidaia, (89): 63.  
 清水裕行・金沢 至・西川喜朗 2005. ゴケグモ属の分布拡大 —ゴケグモ属侵入発見から 10 年がたって—. 昆虫担当学芸員協議会ニュース, (14).  
 新海栄一 2006. 日本のクモ. 文一総合出版, 東京都.  
 新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生 2010. CD 日本のクモ Ver.2010. CD-ROM, 著者ら自刊.  
 谷川明男 2011. 日本産クモ類目録, Ver.2011R1. インターネット, <http://www.asahinet.or.jp/~dp7a-tknw/japan.pdf>  
 鶴崎展巨 2007. 鳥取県からクロガケジグモ (ウシオグモ科) の生息確認. 山陰自然誌研究, (3): 24-26.  
 西川喜朗 1995. 毒グモに注意! セアカゴケグモが大阪に上陸. Nature study, 41(12).  
 兵庫県 2003. 改訂・兵庫の貴重な自然—兵庫県版レッドデータ 2003—. 兵庫県県民生活部環境局自然環境保全課.  
 本庄四朗 1994. 但馬地方の真正クモ類相について. 兵庫生物, 10(5): 175-178.  
 山本一幸 1992. 但馬のクモ類目録, 追加報告. IRATSME, (15・16): 27-31.  
 山本一幸 印刷中. 山陰海岸ジオパークエリア内のクモ類. 但馬の自然研究, (4).

## 龍谷の森で採集された滋賀県新記録種

吉田 真・社本 吉正・小池 直樹・原口 岳

滋賀県大津市瀬田大江町の龍谷大学瀬田キャンパスに隣接する通称「龍谷の森」で、2004年から2007年まで、ビーティング・シフティングおよび見つけ取りによって、クモ類を採集した。ここでは、そのときに採集されたクモ類のうち、滋賀県新記録種を報告する。

この研究は、龍谷大学里山・地域共生学オープンリサーチセンターの援助を得て行なわれたものである。センターの皆さんに厚く御礼申し上げる。

(吉), (社), (小), (原) はそれぞれ、吉田, 社本, 小池, 原口が採集したことを示す。また, ♂, ♀, ♂y, y はそれぞれ、オス成体, メス成体, オス幼体, 幼体を示している。それぞれの記号の前の数字は採集個体数である。和名と学名および科と種の配列は谷川 (2012) に従った。

### 龍谷の森で採集された滋賀県新記録種

#### マシラグモ科

ヨコフマシラグモ *Falcileptoneta striata* (Oi 1952)

2004年7月13日 1♂ (吉)

#### エンマグモ科

コマツエンマグモ *Segestria nipponica* Kishida 1913

2006年1月25日 1♂ (吉)

#### ウズグモ科

オウギグモ *Hyptiotes affinis* Bösenberg & Strand 1906

2004年9月12日 3♀ (吉), 1♂, ♀1y (社);

同年10月11日 1♂, 6♀ (吉)

マネキグモ *Miagrammopes orientalis* Bösenberg & Strand 1906

2004年6月19日 3♀ (吉); 2005年7月17日 2♀, 15y (吉)

#### ヒメグモ科

キヒメグモ *Parasteatoda asiatica* (Bösenberg & Strand 1906)

2005年5月14日 1♂y, 1y (社); 同年8月21日 2y (社);

同年9月18日 1y (社)

ヒゲナガヤリグモ *Rhomphaea labiata* (Zhu & Song 1991)

2004年6月24日 1♂ (吉); 7月13日 1♀ (社), 2♂, 4♀ (吉);

2006年7月15日 1♂ (小)

ヒロハヒメグモ *Takayus latifolius* (Yaginuma 1960)

2005年1月23日 1♂ y (社)

シモフリヒメグモ *Yunohamella lyrica* (Walckenaer 1842)

2005年6月26日 1♂, 2♀ (社); 同年10月22日 1y (小);

2006年10月14日 1y (吉)

#### サラグモ科

コデーニッツサラグモ *Doenitzius pruvus* Oi 1960

2004年10月11日 1♂, 3♀ (社); 2005年10月22日 2♂ (小);

2006年4月22日 1♂, 3♀ (原)

カワリノコギリグモ *Erigone koshiensis* Oi 1960

2004年10月11日 1♀ (社)

ナラヌカグモ *Parhypomma naraense* (Oi 1960)

2004年6月24日 1♀ (吉); 2005年6月26日 1♀ (社);

2007年4月21日 1♀ (吉)

オオイオリヒメサラグモ *Syedra oii* H. Saito 1983

2004年8月11日 1♀ (社); 2005年5月14日 1♀ (社)

#### アシナガグモ科

オオクマヒメドヨウグモ *Diphya okumae* Tanikawa 1995

2007年2月15日 1y (吉); 同年4月21日 1♂ y (吉)

チビシロカネグモ *Leucauge crucinota* (Bösenberg & Strand 1906)

2005年4月17日 1y (社); 同年7月17日 1♀ (吉);

2006年6月17日 1y (吉)

シナノアシナガグモ *Tetragnatha shinanoensis* Okuma & Chikuni 1978

2004年7月13日 3y (吉); 2005年8月21日 3y (社)

#### コガネグモ科

ゴマジロオニグモ *Mangora herbeoides* (Bösenberg & Strand 1906)

2004年10月11日 1♀ (吉)

#### ツチフクログモ科

ヤサコマチグモ *Cheiracanthium unicum* Bösenberg & Strand 1906

2006年6月17日 1♀ (原), 1♂ (小)

#### カニグモ科

クマダハナグモ *Ebelingia kumadai* (Ono 1985)

2004年10月11日 1♂ (社); 2006年4月22日 1y (小), 1y (原);

2006年10月14日 3y (吉)

### ハエトリグモ科

コジヤバラハエトリ *Helicius cylindratus* (Karsch 1879)

2004年6月19日 1♀ (吉); 同年8月11日 1♀ (吉);

2006年6月17日 1♂, 2♀ (原)

ヒメカラスハエトリ *Rhene albigera* (C.L.Koch 1848)

2004年6月24日 1♂, 1♀ (吉); 同年7月13日 3♂, 6♀ (社);

2006年7月15日 1♀ (吉)

滋賀県のクモは、まだ十分に調べられていない。吉田 (1994) は、これまでの報文と自身の採集データに基づいて、滋賀県には 32 科 243 種が生息しているとした。その後新海ら (2010) は、吉田が触れていない報文や 1994 年以降の報文も調べて、滋賀県のクモとして 43 科 319 種が記録されているとした。

吉田は既に、龍谷の森でワクドツキジグモが採集されたことを報じている (吉田 2007) が、今回の報告によってさらに、新海ら (2010) のリストに挙がっていない滋賀県新記録のクモが 10 科 20 種生息することが明らかになった。なお、龍谷の森ではこの他にも、未同定のクモが数種採集されている。

入江照雄さん、谷川明男さん、加村隆英さん、斎藤博さん、吉田哉さん、熊田憲一さん、池田博明さんにはクモの同定で大変お世話になった。謹んで御礼申し上げる。

### 引用文献

- 新海明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生 2010. CD 日本のクモ Ver. 2010. 著者自刊, CD.
- 谷川明男 2012. 日本産クモ類目録 ver. 2012R1. <http://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tknw/japan.pdf>
- 吉田 真 1994. 滋賀県のクモ類. くものいと, 14: 14–25.
- 吉田 真 2007. 龍谷の森のワクドツキジグモ (*Pasilobus hupingensis*). くものいと, 40: 26–31.



やまかど  
山門水源の森のクモ類

吉田 真・熊田 憲一・西川 喜朗・黒田 あき

はじめに

滋賀県に何種のクモが生息しているかについては、まだ十分に調べられていない。吉田 (1994) は、これまでの報文と自身の採集データに基づいて、滋賀

表1. 山門湿原の森のクモ類の概要.

科名	種数	未記載種	滋賀県新記録種
タマゴグモ科	1		1
ヤマトガケジグモ科	1		
ヤチグモ科	2		1
タナグモ科	2		
キシダグモ科	2		
コモリグモ科	8		4
サラグモ科	3	1	1
ヒメグモ科	20		1
ジョロウグモ科	1		
アシナガグモ科	10		1
コガネグモ科	26		3
コマチグモ科	1		1
シボグモ科	1		
エビグモ科	2		
ワシグモ科	1		
カニグモ科	7		2
フクログモ科	5		
イツツグモ科	1		
ウエムラグモ科	1		
ネコグモ科	3		
ハエトリグモ科	8		
合計	106	1	15

県には32科243種が生息しているとした。新海ら (2010) は、吉田が触れていない報文や 1994 年以降の報文も調べて、滋賀県のクモとして43科319種が記録されているとした。しかし、愛知県や三重県では500種以上が記録されており、滋賀県でももっと多くの種が生息しているはずである。

このたび、「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」の伊藤博さんの仲介で、この森のクモ類を調べることとなった。2011年には7月と10月にこの森で採集を行った。今回は、同定が済んだ7月の分についてのみ、その結果を報告する。

#### 場所と方法

2011年の7月12日に、以下の4箇所では採集を行った: 1) 駐車場から楽舎まで、2) 沢沿いの道、3) 湿原、4) 四季の森。採集方法は、

表 2. 山門湿原の森で採集されたクモ類. ☆は未記載種, \*は滋賀県新記録種.

タマゴグモ科 *ダニグモ	カグヤヒメグモ カニミジグモ
ヤマトガケジグモ科 ヤマトガケジグモ	キベリミジグモ ギボシヒメグモ
ヤチグモ科 *ヤハギヤチグモ ヨゴヤマヤチグモ	スネグロオチバヒメグモ ニホンヒメグモ ヒシガタグモ
タナグモ科 クサグモ コクサグモ	バラギヒメグモ フタオイソウロウグモ ボカシミジグモ
キシダグモ科 アオグロハシリグモ イオウイロハシリグモ	ホシミドリヒメグモ ムナボシヒメグモ *ムネグロヒメグモ ヤリグモ ユノハマヒメグモ
コモリグモ科 *イナダハリゲコモリグモ *イモコモリグモ ウツキコモリグモ *カイゾクコモリグモ クラークコモリグモ *クロココモリグモ チビコモリグモ ハリゲコモリグモ	ジョロウグモ科 ジョロウグモ
サラグモ科 ムネグロサラグモ ユノハマサラグモ ☆ <i>Ainerigone</i> sp.	アシナガグモ科 アシナガグモ *エゾアシナガグモ オオシロカネグモ キララシロカネグモ キンヨウグモ コシロカネグモ タニマノドヨウグモ チクニドヨウグモ ヤサガタアシナガグモ ヤマジドヨウグモ
ヒメグモ科 アシプトヒメグモ アマシミジグモ オオツリガネヒメグモ オオヒメグモ オナガグモ	コマチグモ科 *ヤサコマチグモ シボグモ科 シボグモ

ビーティング, シフティング, 見つけ取りの3つの方法を併用した.

ビーティングは木の枝などを棒で叩き, 落ちてきたクモを捕虫網などで集めるものである. シフティングは, 落ち葉などをふるって, その中にいるクモを落とすものである. 筆者らは, 台所で洗った皿の水を切るために使う籠を用いている. 見つけ取りは, 文字通り, 見つけたクモを捕まえるものである.

### 結果と考察

7月には21科106種のクモが採集された. 種数が多かったのはコガネグモ科(26種)とヒメグモ科(20種)であり, これら2つの科で全体の43%を占めている. これとは対照的に, 多くの種を含むはずのサラグモ科では, 3種しか採集されなかった. このうち, 未記載種(新種候補)は1種, 滋賀県新記録種は15種である(表1). 未記載種はサラグモ科のアイヌコサラグモ属(*Ainerigone*)の一種であり, 新記録種は

表 2. 続き. \*は滋賀県新記録種

<b>コガネグモ科</b>	<b>カニグモ科</b>
オオクマヤミイロオニグモ	アマギエビスグモ
オオトリノフンダマシ	ガザミグモ
オニグモ	*クマダハナグモ
カラスゴミグモ	コハナグモ
*キザハシオニグモ	セマルトラフカニグモ
キジロゴミグモ	*チシマカニグモ
ギンナガゴミグモ	ワカバグモ
*コオニグモモドキ	<b>フクログモ科</b>
コガタコガネグモ	イナフクログモ
コゲチャオニグモ	ムナアカフクログモ
ゴマジロオニグモ	ヤギヌマフクログモ
ゴミグモ	ヤハズフクログモ
サガオニグモ	ヤマトフクログモ
サツマノミダマシ	<b>イツツグモ科</b>
シロスジショウジョウグモ	イツツグモ
トガリオニグモ	<b>ウエムラグモ科</b>
トゲグモ	イタチグモ
ドヨウオニグモ	<b>ネコグモ科</b>
トリノフンダマシ	コムラウラシマグモ
ナガコガネグモ	ネコグモ
ヌサオニグモ	ヤバネウラシマグモ
ハラビロミドリオニグモ	<b>ハエトリグモ科</b>
*マメイタイセキグモ	アリグモ
ヤマトカナエグモ	カラスハエトリ
ヨツデゴミグモ	ジャバラハエトリ
ワキグロサツマノミダマシ	デーニツツハエトリ
<b>エビグモ科</b>	ネコハエトリ
アサヒエビグモ	マガネアサヒハエトリ
シャコグモ	ヤサアリグモ
<b>ワシグモ科</b>	ヤハズハエトリ
メキリグモ	

ダニグモ (タマゴグモ科), ヤハギヤチグモ (ヤチグモ科), イナダハリゲコモリグモ, イモコモリグモ, カイゾクコモリグモ, クロココモリグモ (コモリグモ科), ムネグロヒメグモ (ヒメグモ科), エゾアシナガグモ (アシナガグモ科), キザハシオニグモ, コオニグモモドキ, マメイタイセキグモ (コガネグモ科), ヤサコマチグモ (コマチグモ科), クマダハナグモ, チシマカニグモ (カニグモ科) である (表 2). 今回の調査で滋賀県のクモは 15 種増加し, 334 種となった. なお, 場所別に採集されたクモのリストを付表に示す.

滋賀県新記録種のひとつであるクマダハナグモは熊田憲一さんに献名されたクモである. また, マメイタイセキグモ (図 1) はナゲナワグモの一種であり, 第二脚の先端から粘球を糸で吊るし, それを回転させて蛾を捕えるという珍しい習性をもっている. 全国的にも採集例の少ない希少種である (新海 2006).

今回採集されたクモの多くは本州に広く分布してい

るもので, 山門のクモ相が北方的であるとも南方的であるとも言い難い. ただ



図 1. マメイタイセキグモのメス。  
緒方清人さん撮影。

し、コガネグモ科のコオニグモモドキは北海道では平地にも山地にも生息するが、本州では標高 500 m 以上の山地に生息し、個体数は 1000 m 以上で急増する (新海 2006)。このことから、コオニグモモドキは北方系の種と言えるだろう。

ところで、滋賀県には何種のクモが生息しているのでしょうか？ 表 3 は、滋賀県と近隣府県のクモの種数を示したものである。滋賀県は福井県について種数が少ない。福井県の種数は、最も多い三重県の半分強に過ぎない。

しかし、府県によって面積は大きく

異なり、最も狭い奈良県は最も広い岐阜県の 3 分の 1 強しかない。単位面積当たりの種数は岐阜県の 3.8 が最小で、三重県の 9.3 が最多となっている。三重県のクモはかなり詳細に調べられているので、種数が飛躍

表 3. 滋賀県と近隣府県のクモの種数. 種数は新海ら (2010) に、面積はウィキペディアによる。

府県	種数(A)	km <sup>2</sup> 面積(B)	(A/B)×100 種数/単位面積(C)	A×(10/C) 推定種数
福井県	283	4189	6.8	419
滋賀県	319	4017	7.9	402
奈良県	334	3691	9.0	369
京都府	357	4613	7.7	461
岐阜県	406	10621	3.8	1062
三重県	537	5776	9.3	578

的に増加するとは考えにくく、単位面積当たりの種数もそれほど増加しないと予想される。そこで、単位面積当たりの種数の上限を 10 と仮定して各府県に生息する種数を推定してみた。この計算が正しいとすると、滋賀県には 402 種のクモが生息していることになる。本報告を含め、滋賀県では 334 種のクモが記録されているから、あと 70 種ほどのクモが見つかる可能性がある。

## 謝辞

この森の自然を保全するために、ここでは動植物の採集は原則的に禁止されている。しかし、クモ類の多くは小さくて野外では同定できないものが多いた

めに、今回は特別に許可を得て採集をさせていただいた。「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」の皆さんのご厚意に深く感謝するものである。

また、マメイタイセキグモの写真を提供していただいた中部蜘蛛懇談会の緒方清人さんにも厚く御礼申し上げる。

### 引用文献

新海明・安藤昭久・谷川明男・桑田隆生 2010. CD 日本のクモ Ver. 2010.

吉田 真 1994. 滋賀県のクモ類. くものいと, 14: 14-25.

新海栄一 2006. ネイチャーガイド 日本のクモ. 335 pp. 文一総合出版, 東京.

付録. 山門水源の森のクモ類 (2011年7月12日採集). \*は滋賀県新記録種, ☆は未記載種. 種ごとに性別成長段階を付記した (M: オス成体, F: メス成体, m: オス幼体, f: メス幼体, y: 性別不明幼体, ○: 性別・成長段階不明).

1) 駐車場～楽舎		コモリグモ科	
アシナガグモ科		*イナダハリゲコモリグモ	F
キンヨウグモ	f y	クラークコモリグモ	M
コシロカネグモ	MF	サラグモ科	
<i>Tetragnatha</i> sp.	y	ユノハマサラグモ	y
イツツグモ科		ジョロウグモ科	
イツツグモ	F	ジョロウグモ	y
エビグモ科		タナグモ科	
<i>Philodromus</i> sp.	y	クサグモ	m f
カニグモ科		コクサグモ	f
コハナグモ	MF	ハエトリグモ科	
ワカバグモ	y	デーニツツハエトリ	f y
キシダグモ科		ネコハエトリ	y
イオウイロハシリグモ	f	マガネアサヒハエトリ	M F f
コガネグモ科		ヒメグモ科	
オオクマヤミイロオニグモ	f	オオツリガネヒメグモ	M F
オオトリノフンダマシ	f	オオヒメグモ	M F
オニグモ	F	オナガグモ	M
ゴミグモ	F	カグヤヒメグモ	M f y
トガリオニグモ	f	カニミジグモ	F f
ハラビロミドリオニグモ	F	ギボシヒメグモ	F
*マメイタイセキグモ	f	ヤリグモ	M
ヤマトカナエグモ	F	フクログモ科	
ヨツデゴミグモ	F	ムナアカフクログモ	f
コマチグモ科		ヤギヌマフクログモ	M F
*ヤサコマチグモ	M	ヤハズフクログモ	f
		<i>Clubiona</i> sp.	y

ヤチグモ科		マガネアサヒハエトリ	MF
ヨゴヤマヤチグモ	f y	<b>ヒメグモ科</b>	
<b>ヤマトガケジグモ科</b>		オオヒメグモ	○
ヤマトガケジグモ	f	カニミジグモ	F
<b>ワシグモ科</b>		スネグロオチバヒメグモ	F
メキリグモ	M m F	ニホンヒメグモ	f
<b>2) 沢</b>		ヒシガタグモ	y
<b>アシナガグモ科</b>		ボカシミジグモ	F
*エゾアシナガグモ	F	ムナボシヒメグモ	F
オオシロカネグモ	MF f	ユノハマヒメグモ	F
キンヨウグモ	f	<b>フクログモ科</b>	
コシロカネグモ	M	ムナアカフクログモ	f
タニマノドヨウグモ	F	ヤギヌマフクログモ	F
チクニドヨウグモ	○	<b>ヤチグモ科</b>	
ヤマジドヨウグモ	f	*ヤハギヤチグモ	F
<b>カニグモ科</b>		ヨゴヤマヤチグモ	F f y
セマルトラフカニグモ	f	gen. sp.	m
ワカバグモ	y	<b>ワシグモ科</b>	
<b>キシダグモ科</b>		gen. sp.	y
アオグロハシリグモ	f y	<b>3) 湿原</b>	
<b>コガネグモ科</b>		<b>アシナガグモ科</b>	
ギンナガゴミグモ	F	アシナガグモ	f
コゲチャオニグモ	f	オオシロカネグモ	y
サガオニグモ	F	キララシロカネグモ	MF y
トゲグモ	FM	キンヨウグモ	F
ヨツデゴミグモ	f	ヤサガタアシナガグモ	F
<i>Cyclosa</i> sp.	M	<i>Tetragnatha</i> sp.	f
<b>コマチグモ科</b>		gen. sp.	F f
*ヤサコマチグモ	M	<b>ウエムラグモ科</b>	
<b>コモリグモ科</b>		イタチグモ	F
<i>Pirata</i> sp.	○	<b>エビグモ科</b>	
gen. sp.	○	アサヒエビグモ	F
<b>シボグモ科</b>		シャコグモ	f
シボグモ	f	<b>カニグモ科</b>	
<b>ジョロウグモ科</b>		クマダハナグモ	y
ジョロウグモ	y	コハナグモ	MF f
<b>タマゴグモ科</b>		セマルトラフカニグモ	f
*ダニグモ	○	ワカバグモ	F f
<b>ネコグモ科</b>		<b>コガネグモ科</b>	
コムラウラシマグモ	y	オオクマヤミイロオニグモ	y
<b>ハエトリグモ科</b>		*キザハシオニグモ	○
カラスハエトリ	f	ギンナガゴミグモ	f y
ジャバラハエトリ	MF	*コオニグモモドキ	y

コガタコガネグモ	F	gen. sp.	M f y
コゲチャオニグモ	y	<b>ヤチグモ科</b>	
サツマノミダマシ	m f	ヨゴヤマヤチグモ	F y
シロスジシヨウジヨウグモ	f	<b>ワシグモ科</b>	
トゲグモ	m f	メキリグモ	○
ドヨウオニグモ	F		
トリノフンダマシ	MF	<b>4) 四季の森</b>	
ナガコガネグモ	m f	<b>アシナガグモ科</b>	
ヌサオニグモ	f	*エゾアシナガグモ	MF
ワキグロサツマノミダマシ	f	オオシロカネグモ	MF
<b>コモリグモ科</b>		キララシロカネグモ	○
*イモコモリグモ	m f	キンヨウグモ	f y
ウツキコモリグモ	f	ヤマジドヨウグモ	m f
カイゾクコモリグモ	MF	<i>Tetragnatha</i> sp.	y
*クロコモリグモ	MF	gen. sp.	○
チビコモリグモ	○	<b>カニグモ科</b>	
*ハリゲコモリグモ	F	アマギエビスグモ	F
<b>サラグモ科</b>		ガザミグモ	○
ムネグロサラグモ	F	コハナグモ	MF
☆ <i>Ainerigone</i> sp.	○	セマルトラフカニグモ	f y
<b>ジョロウグモ科</b>		*チシマカニグモ	F
ジョロウグモ	F	ワカバグモ	y
<b>タナグモ科</b>		<b>キシダグモ科</b>	
クサグモ	y	アオグロハシリグモ	m f y
コクサグモ	f	<b>コガネグモ科</b>	
<b>ハエトリグモ科</b>		カラスゴミグモ	F
アリグモ	y	キジロゴミグモ	F
デーニツツハエトリ	F	ギンナガゴミグモ	F
ネコハエトリ	F	コガタコガネグモ	m f
ヤハズハエトリ	f y	ゴマジロオニグモ	y
<b>ヒメグモ科</b>		トゲグモ	m F
アシプトヒメグモ	M f m y	<i>Araniella</i> sp.	y
カグヤヒメグモ	M y	<i>Argiope</i> sp.	y
カニミジグモ	F	<b>コマチグモ科</b>	
ギボシヒメグモ	M f	ヤサコマチグモ	M
ニホンヒメグモ	f	<b>コモリグモ科</b>	
バラギヒメグモ	MF m y	クラークコモリグモ	MF f
ボカシミジグモ	m y	<b>サラグモ科</b>	
ムナボシヒメグモ	F	ムネグロサラグモ	M m
*ムネグロヒメグモ	y	☆ <i>Ainerigone</i> sp.	F
ヤリグモ	F m	<b>シボグモ科</b>	
<b>フクログモ科</b>		シボグモ	f
ムナアカフクログモ	M f	<b>ジョロウグモ科</b>	
ヤマトフクログモ	y	ジョロウグモ	y

タナグモ科		キベリミジングモ	F
クサグモ	m	ギボシヒメグモ	M f
コクサグモ	f	ニホンヒメグモ	f
gen. sp.	○	フタオイソウロウグモ	F
ネコグモ科		ボカシミジングモ	M m F f
ヤバネウラシマグモ	M F	ホシミドリヒメグモ	f
ネコグモ	F	フクログモ科	
ハエトリグモ科		イナフクログモ	F
ジャバラハエトリ	M F	ムナアカフクログモ	M
デーニツハエトリ	f y	<i>Clubiona</i> sp.	y
マガネアサヒハエトリ	F	ヤチグモ科	
ヤサアリグモ	M F	ヨゴヤマヤチグモ	F f
ヤハズハエトリ	○	gen. sp.	y
ヒメグモ科		ワシグモ科	
アマミミジングモ	F	gen. sp.	○
カニミジングモ	F		

## スリランカにクモ相撲習俗はない

There is no evidence of Spider fighting in Sri Lanka

関根 幹夫

Mikio SEKINE

My friend, Mr. Matsuno Kenji, lives in Gampaha, Sri Lanka, posted a letter informing me of Spider fighting in Sri Lanka. He said that the Spider fighting is unknown there.

スリランカのガムパハに、今春から日本語教師として在住の松野賢二氏からの情報（私信）により、スリランカのこの地に、クモ相撲習俗がないということが判明した。クモ相撲は現在、中国・台湾・韓国・タイ・オーストラリア・パプア（インドネシア領）にその習俗がなく、フィリピンと日本にのみ見られる。



## ツシマトリノフンダマシ 神戸市で発見！

ツシマトリノフンダマシが神戸市で見つかった。兵庫県初記録である。発見したのは神戸市東灘区在住の山口英樹さん。場所は、神戸市灘区高羽町の山林(御影山手から山道を登って渦が森公園の裏手に出る山道の途中)。2012年6月23日に散策に出かけた折に、本種と遭遇したとのこと。山口さんは、種々の生物や自然の写真を扱ったブログ <<http://blogs.yahoo.co.jp/taimyrensis>> を開設しておられて、本種の写真も最初、そこに掲載された。

山口さんご自身は、発見当初はこれが何か分からなかったようで、三重クモ談話会の掲示板に投稿された。そこで本種であることが分かり、同会の塩崎哲哉さんが加村に連絡をくださったのである。同時に山口さんからメールを頂戴し、写真(図1)をご提供いただいた。

山口さんのメールの一部を紹介する。「御影、岡本は六甲の山麓という立地で住宅地にある森にアオバズクが渡来するほど自然豊かな町です。今回の発見場所はわが町御影の裏山である坊主山の山腹を通る山道で、渦が森の住宅地のすぐそばにありながら、5月の初めの夏鳥の渡りの季節にはオオルリ、キビタキ、センダイムシクイ、ヤブサメ、ツツドリなどのさえずりが降り注ぎ、動物ではこの付近によく出没するイノシシや、運が良ければタヌキも目にすることがあ



図1. 兵庫県で初めて発見されたツシマトリノフンダマシ (撮影：山口英樹氏).

ります。またこのすぐそばに国宝の桜ヶ丘銅鐸・銅戈の出土地があります。本種を発見した当初はクモだとは想像もしませんでした。このような希少な種類の生物に県下で初めて遭遇できたことは無上の喜びです。」

新海ら (2012) によると、本種の既知産地は、栃木、千葉、東京、神奈川、石川、長野、静岡、愛知、三重、和歌山、島根、徳島、愛媛、高知、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄の 18 都県である。太平洋沿岸の県が多く、国内での分布域はある程度広いものの、会うことは極めて稀な種であり、兵庫県では未発見であった。

なお、今回発見された個体は写真撮影だけで、採集されていないことを付記する。

貴重な情報をご提供いただいた山口英樹さん、および、塩崎哲哉さんはじめ三重クモ談話会の皆様に厚くお礼申し上げます。

文献

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生 2012. CD 日本のクモ Ver. 2012. 著者自刊.

(文責：加村 隆英)

---

## 滋賀県名神高速菩提寺 PA でセアカゴケグモを採集

西川 喜朗

名神高速道の菩提寺パーキングエリアで、セアカゴケグモを採集したので報告する。

2012年6月1日に、名神高速道の上り線の菩提寺パーキングエリア（滋賀県湖南市）で休憩をした際に、駐車場横の野外休憩場の側溝の鉄格子（グレーチング）にクモの巣があり、糸が強く枯葉などのゴミが付いていたので、イネ科の茎を突っ込んでくるくると廻して、クモの巣を巻きつけて手早く引っぱり上げると、セアカゴケグモが糸にからみついて出てきた。空の卵のう、卵入りの卵のうもあった。体長2~3ミリの小さな幼生は見つからなかった。糸の強そうな巣のすべての約8か所で試みた。糸の弱そうなクモの巣からは、ツリガネヒメグモの一種も3個体見つかった。

採集データは以下の通り。セアカゴケグモ 3♀, 2♀y, 卵入り卵のう 1個, 空の卵のう 1個。滋賀県湖南市, 名神高速道の上り線の菩提寺パーキングエリア。2012年6月1日（金）、採集者：西川喜朗。

## 関西クモ研究会 採集会の記録 (宝が池公園)

2012年5月20日に実施された宝が池公園(京都府京都市左京区)での採集会で得られたクモを報告する。

参加者: 荒川真, 伊藤博, 上田祐補, 加村隆英, 黒田あき, 小池直樹, 竹内正幸, 田中穂積, 船曳和代, 榎元智子, 村上協三, 山田廣士, 吉田真 (13名) (図1).



図1. 採集会(京都市宝が池公園, 2012年5月20日)の参加者(撮影: 加村隆英).

### 採集されたクモ類

科の配列は小野(2009)に, 学名は谷川(2012)に準拠している. 種名は学名のアルファベット順に配列した. 特に言及されていない種に関しては採集と同定は同一人物が行った. 丸かっこ内に採集者を示す.

#### トタテグモ科

キシノウエトタテグモ *Latouchia typica* 幼体 (小池)

#### エンマグモ科

ミヤグモ *Ariadna lateralis* ♀成体 (黒田, 小池)

#### タマゴグモ科

クスミダニグモ *Gamasomorpha kusumii* ♀成体 (加村)

シャラクダニグモ *Opopaea syarakui* ♀成体 (加村)

ナルトミダニグモ *Ischnothyreus narutomii* ♀成体 (加村)

#### ユウレイグモ科

ユウレイグモ *Pholcus zichyi* ♂成体 (小池), 幼体 (吉田)

#### マシラグモ科

マシラグモ科の1種 *Leptonetidae* gen. sp. ♀成体 (小池)

#### ハグモ科

ネコハグモ *Dictyna felis* 幼体 (吉田)

ムツメカレハグモ *Lathys sexoculata* ♀成体 (小池)

#### ウズグモ科

マネキグモ *Miagrammopes orientalis* 幼体 (小池, 吉田)

ヤマウズグモ *Octonoba varians* ♂成体 (小池, 榎元)

#### ナミハグモ科

カチドキナミハグモ *Cybaeus nipponicus* ♀成体 (小池)

#### ヤチグモ科

ウスイロヤチグモ *Coelotes decolor* ♀成体 (小池)

ヒメシモフリヤチグモ *Iwogumoa interuna* ♀成体 (小池)

#### タナグモ科

クサグモ *Agelena silvatica* 幼体 (小池, 吉田)

コクサグモ幼体 *Allagelena opulenta* (吉田)

コタナグモ属の1種? *Cicurina* ? sp. ♀成体 (小池)

#### キシダグモ科

アズマキシダグモ *Pisaura lama* ♀成体 (荒川採集加村同定, 小池)

イオウイロハシリグモ *Dolomedes sulfureus* 幼体 (吉田)

スジブトハシリグモ *Dolomedes saganus* 幼体 (吉田)

#### コモリグモ科

ヒノマルコモリグモ *Arctosa ipsa* ♂成体 (小池)

ハラクロコモリグモ *Lycosa coelestis* ♂成体 (吉田)

ハリゲコモリグモ *Pardosa laura* ♀成体, ♂成体 (田中)

クラークコモリグモ *Pirata clercki* ♀成体 (小池, 田中), ♂成体 (田中)

キバラコモリグモ *Pirata subpiraticus* ♀成体 (田中)

#### ササグモ科

ササグモ *Oxyopes sertatus* 幼体 (小池, 吉田)

#### ヒメグモ科

オナガグモ *Ariamnes cylindrogaster* 幼体 (小池, 吉田)

ヨロイヒメグモ *Comaroma maculosa* ♀成体, ♂成体 (加村)

カレハヒメグモ *Enoplognatha abrupta* ♀成体 (黒田, 吉田)

- ムラクモヒシガタグモ *Episinus nubilus* ♂成体 (榎元)  
ムナボシヒメグモ *Keijia sterninotata* 幼体 (小池)  
セアカゴケグモ *Latrodectus hasselti* ♀成体 (加村)  
フタオイソウロウグモ *Neospintharus fur* 幼体 (吉田)  
ツリガネヒメグモ *Parasteatoda angulithorax* ♂成体 (加村, 小池, 吉田), 幼体 (吉田)  
オオヒメグモ *Parasteatoda tepidariorum* ♀成体 (小池, 吉田), ♂成体 (榎元, 吉田), 幼体 (吉田)  
カグヤヒメグモ *Parasteatoda culicivora* ♀成体 (吉田)  
コンピラヒメグモ *Parasteatoda kompirensis* 幼体 (吉田)  
ハンゲツオスナキグモ *Steatoda cingulate* ♀成体 (小池)  
スネグロオチバヒメグモ *Stemmops nipponicus* ♂成体, 幼体 (加村)  
バラギヒメグモ *Takayus chikunii* ♀成体, ♂成体 (吉田)

#### ホラヒメグモ科

- コホラヒメグモ *Nesticella brevipes* ♀成体, ♂成体 (小池)

#### サラグモ科

- ハラジロムナキグモ *Diplocephaloides saganus* ♀成体 (小池, 吉田), ♂成体 (吉田)  
コデーニッツサラグモ *Doenitzius pruvus* ♀成体 (加村)  
クロナンキングモ *Hylyphantes graminicola* ♀成体, ♂成体 (加村)  
コウシサラグモ? *Nerienne clathrata* ♀成体 (小池)  
クスマサラグモ *Nerienne fusca* ♀成体 (榎元)  
テングヌカグモ *Paikiniana mira* ♀成体 (加村)  
オオイオリヒメサラグモ *Syedra oii* ♀成体 (加村)  
ユノハマサラグモ *Turinyphia yunohamensis* 成体♀ (榎元)  
サラグモ科の一種 *Linyphiidae* gen. sp. 幼体 (吉田)

#### アシナガグモ科

- コシロカネグモ *Leucauge subblanda* ♀成体 (小池), 幼体 (吉田)  
キヌアシナガグモ *Tetragnatha lauta* ♂成体 (黒田)  
アシナガグモ *Tetragnatha praedonia* ♀成体, ♂成体, 幼体 (吉田)  
ウロコアシナガグモ *Tetragnatha squamata* ♂成体 (小池, 榎元, 吉田)  
エゾアシナガグモ *Tetragnatha yesoensis* ♂成体 (小池)

#### コガネグモ科

- ハツリグモ *Acusilas coccineus* 幼体 (榎元)  
オオクマヤミイロオニグモ *Araneus acusisetus* ♂成体 (吉田)  
カラオニグモ *Araneus tsurusakii* ♀成体 (加村)

コガネグモ *Argiope amoena* 幼体 (吉田)

ギンメッキゴミグモ *Cyclosa argenteoalba* ♀成体 (榊元, 吉田)

サガオニグモ *Eriophora astridae* ♀成体 (小池)

カラフトオニグモ *Eriophora sachalinensis* ♀成体 (黒田)

イエオニグモ *Neoscona nautica* ♂成体 (吉田)

コゲチャオニグモ *Neoscona nautica* ♀幼体 (黒田)

ヤマシロオニグモ *Neoscona scylla* 幼体 (加村, 黒田, 小池, 榊元)

ヒメオニグモ属の1種 *Neoscona* sp. 幼体 (吉田)

#### シボグモ科

シボグモ *Anahita fauna* ♂成体 (小池), ♀幼体 (加村)

#### アシダカグモ科

コアシダカグモ? *Sinopoda forcipata*? 幼体 (小池)

#### エビグモ科

アサヒエビグモ *Philodromus subaureolus* 幼体 (小池, 吉田)

シャコグモ *Tibellus tenellus* 幼体 (小池)

#### ワシグモ科

ムナキワシグモ *Cladothela unciinsignita* ♀成体 (吉田採集加村同定)

エビチャヨリメケムリグモ *Drassyllus sanmenensis* ♀成体 (黒田採集加村同定)

ヤマトフトバワシグモ *Odontodrassus hondoensis* 幼体 (加村)

#### カニグモ科

コカニグモ *Coriarachne fulvipes* ♀成体 (吉田)

コハナグモ *Diaea subdola* ♀成体 (田中), 幼体 (吉田)

ハナグモ *Ebrechtella tricuspidata* 幼体 (吉田)

ワカバグモ *Oxytate striatipes* ♀成体 (吉田), ♂成体 (榊元), 幼体 (吉田)

#### フクログモ科

フクログモ属の1種 *Clubiona* sp. ♂成体 (小池)

#### ウエムラグモ科

イタチグモ *Itatsina praticola* 幼体 (加村, 小池)

#### ネコグモ科

オトヒメグモ *Orthobula crucifera* ♀成体 (加村)

ヤバネウラシマグモ *Phrurolithus pennatus* 幼体 (加村)

ネコグモ *Trachelas japonicas* ♀成体 (吉田)

#### ハエトリグモ科

ネコハエトリ *Carrhotus xanthogramma* ♀成体 (田中), 幼体 (吉田)

マミジロハエトリ *Evarcha albaria* ♂成体 (吉田)

- マミジロハエトリグモ属の1種? *Evarcha* ? sp. 幼体 (小池)  
アリグモ *Myrmarachne japonica* ♂成体 (榊元), ♂幼体 (小池)  
ヤガタアリグモ *Myrmarachne elongate* ♂成体 (吉田), 幼体 (榊元, 吉田)  
ヤサアリグモ *Myrmarachne inermichelis* ♂成体 (吉田)  
イナズマハエトリ *Pseudicius vulpes* ♂成体 (荒川)  
キレワハエトリ *Sibianor pullus* ♂成体 (榊元採集加村同定), ♂幼体 (荒川,  
榊元採集加村同定)  
ヒトリコゲチャハエトリ *Sitticus avocator* ♀成体 (加村, 榊元), ♂幼体 (荒  
川)  
ハエトリグモ科の1種 *Salticidae* gen. sp. 幼体 (黒田, 吉田)  
チャイロアサヒハエトリ *Phintella abnormis* 幼体 (榊元, 吉田)  
デーニッツハエトリ *Plexippoides doenitzi* ♀成体 (黒田, 吉田)  
ウススジハエトリ *Yaginumaella striatipes* 幼体 (小池)  
および  
所属科不明の1種 幼体 (吉田)

(計 96 種)

## 付記

セアカゴケグモは左京区岩倉南大鷲町にある市営地下鉄烏丸線国際会館駅  
4-1 番出口の建物外壁で採集された。同外壁ではクロガケジグモ, ネコハグモ,  
オオヒメグモ, イエオニグモなども観察されている。また, ナルトミダニグモ,  
クスマダニグモ, コデーニッツサラグモ, テングヌカグモ, オオイオリヒメサ  
ラグモ, ムナキワシグモ, ヤガタアリグモ, ヒトリコゲチャハエトリは京都初  
記録種である (新海ら 2010)。

## 文献

- 小野展嗣 編 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会  
新海明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑畑隆生 2010. CD 日本のクモ ver.2010. 著  
者自刊, CD  
谷川明男 2012. 日本産クモ類目録 ver.2012R1. インターネット: [http://www.asahi-net.  
or.jp/~dp7a-tknw/japan.pdf](http://www.asahi-net.or.jp/~dp7a-tknw/japan.pdf)

(文責: 小池 直樹)

## 池田 勇介さんを偲ぶ

本会会員の池田勇介さんが2012年4月29日に急逝されました。

まだ高校生であった彼のあまりに早すぎる死に直面し、彼を知る多くの人々が言葉を失いました。本会会員一同、心から哀悼の意を表します。

### 池田勇介君の思い出

船 曳 和 代

池田勇介君に初めて会ったのは1999年9月19日のことである。その日彼は、私の地元、姫路青山で行われた関西クモ研究会恒例の採集会に父親と一緒に参加してくれたのだ。当時彼はまだ5歳、私の眼からみると小柄でやせっぽちの、なんとなくひ弱に見える男の子だった。石ころが転がり、左右から草や木が迫ってくるような山道を歩く姿は、何かよちよち歩きの幼児のように見え、すぐに「疲れた。帰りたい。こんなところ嫌だ」と言いだすのではないかと心配した。だが彼は誰よりも熱心にクモを採集した。

この時、クモに関してはすでに相当の知識を持っていたようだ。父親がクモを見つけて「勇介、これなんや？」と尋ねると、チラッと見ただけで「〇〇グモ」と答える。私は横で「うんうん」とうなずきながら、その正確さに舌を巻いていた。中でも一番印象に残っているのは、草間に網を張っていたクモを「キララシロカネグモ」と即座に同定したことだ。キララシロカネグモなんて私がクモをやり始めてから、かなりたった頃に知ったクモだ。それを5歳の彼は、ちょっと見るだけですぐに分かるほどよく知っていた。「勇介君はすごい！」それが私の第一印象であった。その時書いた『くものいと No. 27』の報告にも「勇



介君は、トリノフンダマシ、キララシロカネグモなんて“クモプロ”でなければ知らないような名前がすらすら出てくる素晴らしい男の子。将来はきっと立派なクモ学者に成長してくれることでしょう」と書いている。

同じ号には父親の池田幸二氏の「姫路採集会の感想」という短文があり、そこには「ペットボトルを改良して作ったクモボトルで、クモを採る池田勇介君」として写真が載っている。その真剣な眼差しと、クモ採りに集中している姿は、一つのことを真っ直ぐに探求していく彼の姿をよくあらわしている。

それ以後、関西クモ研究会の採集会には必ず彼の姿があった。ある時は父親と二人で、ある時は両親と弟と四人でやってきた。そしていつも熱心にクモを採集していた。12月の例会にも出てくるようになった。最初の頃、発表は理解できるものもあっただろうが、チンプンカンプンのものもあつたに違いない。小学校1,2年といえはじっとしているのが苦手である。両親は画帳やクレヨン、お菓子や本など、子供の興味のあるものを持ちこんでいたけれども、普通ならあきて騒いだり部屋を出てしまったりするものだ。ところが彼はある時はじっと話に耳を傾け、ある時は画面に見入り、ある時は画帳に絵を描きながらおとなしく座っていた。

最初に会った頃、彼のクモに対する知識は私と同等か少し低いものだったと思っている。だが、すぐに私を追い越した。その後、差はどんどん開いて数年たつともう見上げるほどになり、ここ数年は「これ何？」と彼に名前を覚えてもらうようになっていた。

思えばリアルタイムで彼の成長を見てきたことになる。自分の子供でもない孫でもない少年、けれども成長していく姿を見るのがとても楽しみであった。彼を見ていると子供が持つ無限の可能性を信じることができた。

2008年、大阪で日本蜘蛛学会の大会があった。その会場へ行く途中の交差点で彼に会った。彼は両手に大きな荷物を提げていた。私が「すごい大きな荷物やね。それなに？」とその内の一つを指すと「顕微鏡です」と答えた。荷物は顕微鏡やたくさんの資料だったのだ。毎年夏に行われるこの大会には、日本中の著名なクモ学者が集まってくる。普段はなかなか会うことができない学者にも直接顔を合わせて指導してもらうことができる絶好の機会である。彼はその機会を逃さずとらえ、いろいろ教えてもらったり意見を聞いてもらったりする予定だったのだろう。この真っ直ぐ一直線が彼の成長を支えていたのだと思う。

彼がいなくなって20日ほどあと、関西クモ研究会の採集会が京都市左京区の宝ヶ池で行われた。メンバーと歩きながら私は常に彼の姿を見ていた。彼は、ある時はビーティングしていたり、ある時はピンセットで木の皮をはがしていたり、ある時は吸虫管を器用に操作してクモを管瓶中に入れていた。でもこれ

は幻, 現実に彼の姿を見ることはもう決してない。「これ何?」と聞くこともできない。そう思うと, あらためて取り返しのつかないことが起こってしまったのだという悔しさと, 同時に言いようのない悲しみがおそってきた。

## 勇介さんのこと

原 口 岳

池田勇介くん (以下勇介さん) の急逝を知ってから 3 週間あまりの時間が経ちましたが, 突然のことでまだ気持ちの整理がついていません。この場に文章を寄せさせていただくかどうか少し迷いましたが, 私が見た彼の姿をちょっとでも残しておければと思い, 筆を取ります。

おそらく, 彼とはじめて逢ったのは私が学部 3 年生の頃だと思います。関西クモゼミで, はじめてお会いする同好の方々とクモ話をする中に勇介さんがいました。その時は勇介さん, 小学生でしたでしょうか。京大で様々な「異能の人」に出会いましたが, 彼らと比較しても勇介さんと逢った時の印象は相当に強烈だったように思います。今でもクモの同定については「かじった程度」の私にとって, 勇介さんは最初から高みにいる存在でした。遙かに年下で, しかしクモの事にかけては自分が追いつける気すらない勇介さんが居てくれたことは, 自分の目指す先がこっちは無いな, という事をはっきりと認識させてくれました。そういったわけで, 彼の存在が研究者としての自分の目指す方向性を考えるうえで大きな指針になっています。また, なまじっか年齢が近かったりしなかった事は, 無用な競争意識を持たず素直に尊敬できる存在としてつきあえるというプラス面があったと思います。なにせよ, 採集会や関西クモの活動その他を通じて, 勇介さん, そして私と同期の小池さんと共に, 大いに遊ばせてもらいました。学部時代の楽しい思い出の多くが, クモを通じたつきあいだったように思います。

思い返せばそれほど多くの機会ではありませんでした, 勇介さんとは何度か一緒に採集をさせてもらいました。関西クモゼミ・大阪城公園・嵐山あたりは一緒だったと思います。ひょこっとワスレナグモを捕獲してきたり嵐山でゲハウグモを見つけたりと, 彼の採集能力にも度々驚かされました。普段は彼を自分と同年齢くらいの気持ちで扱っていたのですが, そういう時の眼の良さや外遊びでの活発さは, やっぱり実年齢なりの勇介さんの力が発揮されていた気がします。(こうした評価をする事自体, 年寄りのひがみだったかもしれません)

が。) 総じて、勇介さんには子供として魅力的な部分とクモ屋として高いレベルにある部分が共存していて、その両方がクモと戯れていた私の学部時代に、格好の遊び相手になってくれた理由だったと思います。つくづく、もっと遊んでおくのだったなあと悔やまれます。

あまりにも早世だった一方で、彼の残した足跡は私の 27 年間の間に残したそれに比べて、決して少ないものでは無かったと思います。これだけ密な生き方をした人を、私は他に知りません。いち友人として、既に 10 年ほど長く生きてしまった先輩として、これまでも今後も、勇介さんのことは周囲に自慢できる存在であり続けるでしょう。彼ほどには一直線に自分の興味を追求できていない自分から見て、今の世の中においては特に希有で貴重なキャラクターだったと思います。彼を失ったことには寂寥の念を抱く一方で、短かったけれど良い生き方をした彼の事をうらやむ気持ちもあるのです。欲を言えば 5 年くらい後に、対等に研究者の卵として酒飲み話が出来ていたらなあと思います。それが叶わないこととなった今、彼が果たせなかったクモ屋としての思いを、ほんの少しだけ自分も背負って、アツく生きたい。それが、勇介さんと出会って少なからず影響を受けた人間としての生きているうちの責務かな、と思います。

## ゆーすけさんを偲ぶ

小池直樹

クモの研究者として全くの半人前の僕がこのような文を書く資格はないのだが、書く。僕はゆーすけさんに育てられた数少ないクモ屋のうちの一人だ。もしかしたらたった一人の弟子かもしれない。

池田勇介さんと初めて出会い、即座に弟子入りさせてもらってからというもの、僕は年若い彼を尊敬と畏怖の念を込めて「ゆーすけさん」と呼んでいた。ケータイのアドレス帳にも「ゆーすけさん」と「ゆーすけさんち(ご実家)」で登録してある。

2005 年のクリスマスイブに立命館大学の草津キャンパスでクモゼミが開かれ、学部生だった僕は初めてゆーすけさんに会った。まだ小学生だった彼の印象を当時の日記に「ゆーすけさんおそろべし」とだけ書いているが、実際は激しく動揺したのを覚えている。当時いっばしのクモマニアを気取っていた僕にとって、ゆーすけさんとの出会いは衝撃的だった。冷水をぶっかけられた気分

であったと同時にワクワクした。自分の好きなことに邁進し、自力で輝いているゆうすけさんはかっこよかった。

それからは論文の交換や採集・同定方法の指南に至るまで散々お世話になった。僕は「こりゃ一生かけても恩返しはできん、だって一生追いつけないもん」などと開き直っていた。

彼は僕のクモ学の師匠であったが、同時に単なる友達でもあった。弟子入り後しばらくすると、深夜ゆうすけさんからクモと関係ない内容のメールが僕のケータイに来るようになった。夜行性の僕にとって彼は唯一のメル友だったと言えよう。「ヒトと科学はどこまで真理に近づけるか」といった哲学的かつ若々しい内容のものが多くて、彼からメールが来るたびに随分考えさせられ、嬉しかった。関西クモ研の例会後の懇親会では、なぜか音楽の話をするようになった。音楽の趣味は全く合わなくて面白かった。ゆうすけさんはクラシックが好きで、僕はヘビメタ。

しばらくして彼は立命館クモゼミに姿を見せなくなった。僕は「思春期なんてそんなもんだ。もし彼がクモから距離をとっているのであれば好都合、その間に実力差を埋めておこう」などと姑息なことを考えていた。ここ2年ほどは僕からメールを送っても返信してくれなくなったので「いよいよツマラン学生生活を憂いておるのだろう」などと勝手に想像していた。彼の復帰が待ち遠しかった。

2012年4月29日、吉田先生から一報を受けた。何もかもわからなくなって酒を飲んで暴れて虚脱した。

絶対僕が先に死ぬもんだと思っていた。僕は人生の最期に「まあいいや、あとはゆうすけさんがいるし」と思って死んでいく予定であった。勝手な話だし、今となっては不謹慎だけど。

通夜に参列させてもらい、死因を教えてもらった。まったく苦しまず、死んだことすら当人は気づかなかったかもしれないという話を聞いて、ほっとした一方、なんでゆうすけさんなのだ、という思いを強くした。

もう2ヶ月が経ってしまった。

いまだに脱力している。大人になったゆうすけさんと酒でも飲んで下らん馬鹿話がしたかった…。

心よりご冥福をお祈りいたします。

## 池田勇介くんの思い出

黒田 あき

私が池田勇介くんに初めて会ったのは、彼が小学生の時でした。当時私は、追手門学院大学の大学生という立場で、先生方の上手なおだてに乗っかって、クモを学び、池田勇介くんという小学生の兄弟子ができ、ライバルになりました。

加村先生には『クモ採集は、競争やないで！』と怒られた事もあります。兄弟子の勇介くんの方が眼もよく経験値も長いので、憧れのクモを採集した話や顕微鏡や図鑑を持っている事など羨ましい話ばかりが耳に入ってきました。毎日のように加村先生だけでなく西川先生も独占出来る環境だったのですが、欲張って勇介くんも一緒ならもっと最高だと思って和佐又山合宿を提案しました。その頃が一番忘れられない楽しい思い出です。

池田家の家族は、私ならば息子に『何でクモやねん…』と思う所ですが、池田家の父、母、弟さんの勇介くん楽しく寛大な協力者で、同じ虫好きな子どもを持つ親として随分と違うなあと思ってきました。

クモの論文について先生と勇介くんは、専門用語で話すため、そういった話の時には全然入れませんでした。彼の家には、アクタという専門誌が日本一あると言われるほどでしたし、先生方の力の入れようも違って見えました。大人である私の方が熱心で真剣で難しい顔の勇介くんを苦手にも思っていました。しかし、私は彼に「クモだけじゃなく海や山とかで友だちと遊ぶのもイイんじゃないか？」というような話もした事があります。すると彼は、普通の少年らしく、また素敵な笑顔で「友だちとスポーツをするのも好きだし、親戚の所へ行くと海があるから泳ぐのも好きなんだ」とか、「クモ採りはお父さんの方が熱心なんだ」とも言っていた事がありました。夏場のお父さんは、蚊取り線香の煙をモクモクとさせるので笑いつつも迷惑がっていました。セアカゴケグモに咬まれた時、家族が病院に連れて行ってくれるわけでもなく無関心だったこと、東京蜘蛛談話会の採集会では『何のクモが欲しいの？と聞かれて、走って行ってとって戻って来られる事にビックリした』などなど…。

そのように、彼の気さくな一面にも触れて色々な話を聞きました。大阪でのクモ学会打ち上げでは、しっかりした口調で舞台挨拶を務めた中学生の兄弟子に、大変感心しました。次々と思い出す事があつてつきません。

私が加村先生のゼミ生だった時には、加村先生は、友だちは要らないとおっしゃっていた事があります。私の友人にもそう言う人がいて、共通の友だちか

ら『俺たち友だち違うんやろか?』と苦々しく話をした事が何度もありました。そのことからすると、兄弟子の勇介さんと加村先生は、師匠と弟子でもあったわけですが、間違いなく唯一無二の親友でした。それを思うと、大変苦しく感じます。

さらには、私は、勇介さんのほんの数日後に高校時代の親友をも亡くし別れました。勇介さんの時に沢山泣いたので、涙が出ませんでした。親しき友が亡くなるという事の大きさ、同じ時を刻んだ日々が一気に駆け巡ってきました。自分よりも長く親しくされてきた先生方や同級生の事を何度も思いました。

ご家族のお気持ちや親しき友が、勇介さんのそばにいつもあるように心からお祈り申し上げます。

関西クモ研究会 黒田 あき 拝

## 今、秋風を想像しながら勇介さんを想っています（その1）

田中穂積

採集会の帰りだったと思います。何のきっかけだったか、海外の古本屋に、「Bösenberg と Strand (1906 年) による “Japanische Spinnen”」が、売りに出されているという話題を提供してくれたことがあったのを鮮明に覚えています。それは我々日本の蜘蛛分類学者にとっては必要で、垂涎の物でした。しかも話題の主は確かまだ中学生。蜘蛛分類学に対する関心の深さが伝わって来ました。進学先はどこを選ぶのか、きっと我々蜘蛛仲間になってくれるはず。若い蜘蛛学者の誕生を期待し、時間を忘れて同じ立場で蜘蛛談義に花咲かせる日を想像していました。

御家族揃って参加される採集会では、和やかに蜘蛛の名前を教え合う様子がほほえましく、採集会参加の楽しみの一つになっていました。時を経て、採集した種の名前を次々答えられる場に遭遇し驚き、やがて、追い抜かれていると実感しました。中でも、幼い弟さんの話を頷きながら聞く姿勢や目が優しく、広い心が見えました。まだ中学生なのに心は保護者のような気持ちなのだと思え取りました。深い兄弟愛が伝わって来ました。

お葬儀で収集品の数多くの CD を見ました。クラシックファンだったのですね。ここにも、<こだわりを持つ><凝り性>といった研究者としての必須条件を見ました。そして、音楽談義もしたかったと思いました。

君の一生は短すぎるものでしたが、とてもとても充実したものであった事が

わかり、この現実を受け止めようとしています。

次に出会えた時には、そちらの蜘蛛の大家になっていて、私達を指導してくれるのでしょう。

あの日、吉田真さんからのメールが送伝トラブルによるものだと思い込み、確かめた事を思い出しています。そして、それ以前に時間を引き戻したいと強く願った気持ちのまま、今日を迎えています。

## 今、秋風を想像しながら勇介さんを想っています（その2）

田中和代

教育的課題を急速に解決できると考え、的外れな策を講じ続ける大阪の首長に違和感を持つ時、真逆にある教育の理想として在るのが池田さんです。

蜘蛛観察よりハイキングを楽しんでいる私の目に、ご一家の様子は愛に溢れていて、接する者の気持ちを満たして下さいました。

特に、弟さんの愛らしさとその話しかけに対応するお兄ちゃんらしい勇介さんの眼差しが心にあります。まるで保護者であるかのような表情でした。穏やかな家庭の様子が想像され、教育の基本がここにあると思いました。また、お母さんが勇介さんと姉弟のように、採集・観察を楽しんでおられる様子も素敵で、自分の子育て時期以前にお出会いし、家庭創りを参考にさせていただきかけたと思いました。

今、アカデミックな雰囲気のご家庭で幸せな生活を送られてこられた勇介さんの早過ぎる旅立ちを納得しようとしています。

日を経ても残念な思いは募ります。日常口数の少ない夫がきっかけも無く勇介さんを話題にする時、夫にとっても池田勇介さんはかけがえの無い方であったと、再認識させて頂いています。

共に、御冥福をお祈りいたします。

## 勇介くん、熊本での思い出

加 村 隆 英

勇介くんの思い出はたくさんある。関西クモ研究会の採集会や例会、関西クモゼミで何度も顔を合わせたし、私が所属する追手門学院が実施した「大阪城プロジェクト」にも調査員として参加してくれた。いろいろなことが思い出されるが、ここでは、彼と二人だけで一番長い時間を過ごした時のことを書いておきたい。

2007年の日本蜘蛛学会の大会は熊本で開催された。当時、たぶん中学1年生だった勇介くんもこの大会に参加するとのことで、往きも帰りも私と同じ飛行機だった。(このいきさつは、あまり覚えていない。たまたま同じ便だったのかもしれないが、あるいは、事前に予定を確認して、私が乗る便に勇介くんが合わせてくれたのかもしれない。) 出発当日、伊丹空港の熊本行きの搭乗口に向かうと、すでに彼は来ていた。大人たちばかりの中で、小さな彼は逆に目だって、後ろ姿ですぐに分かった。それにしても、まだ中学生なのに、学会の大会に一人で参加するなんてすごいものだと、同じ年齢の頃にもっと幼かった自分自身と比較しながら、あらためて感心したことを覚えている。

さて、熊本での大会は無事に終了した。私自身は大会終了後、現地で少し採集してから夜の飛行機で帰る予定だった。勇介くんも同じ飛行機なので、一緒に採集しようということになり、地図で川や神社などがある場所に当たりをつけて、そこまでタクシーで向かった。まったく初めての土地で、当てずっぽうに選んだ採集場所だったが、道沿いに歩いていくと、川に降りられる所があったり、水田があったりして、けっこう良い場所だった。

彼はとにかく採集しまくっていた。九州熊本に来たからには、キムラグモを採らないわけにはいかない。彼はいい崖地を見つけて、いとも簡単に採集して



図 1. 池田勇介くんが採集したキムラグモ。現地で写真を撮らせてもらったもの。



図 2. 水田の横でスウィーピングをする池田勇介くん。



いた (図 1). 崖も探すし, 地面も探すし, 要所要所では捕虫網でスウィーピングもするし, 一時も休まずに, 採集していた (図 2). 寸暇を惜しんで, とはこういうことなんだな, と思った.

二人ともそれぞれ思い思いに採集していたが, 急に強い雨が降ってきた. 彼も私もすぐに折りたたみ傘を広げた. 二人とも何も言わなかった. もしも, 相手がふつうの中学生だったら, 私は「夏の夕立だから, すぐ止む. 心配しなくていい.」というようなことを語りかけていただろう. しかし, 彼はごく自然に傘を広げて, そこに立っていた. その振る舞いが大人だった. だから, 私は何か言う必要を感じなかったのである.

たいぶ日が傾いてきて, 空港までの道のりを考えると, そろそろ切り上げねばならない. 携帯電話でタクシーを呼んだ. タクシーはどのくらいで来るか正確には分からない. まだ, 少し時間があるかもしれない. 彼はその間もずーっと採集していた. 林の間の道からタクシーがやって来るのが見えた. 車が来たという私の声を聞いて, 彼は大慌てで荷物をまとめた.

タクシーの中で, 彼は「タクシー代は割り勘にしましょう」と言う. 律儀な人である. 「タクシーは一人で乗っても二人で乗っても料金は同じだから, 気にしなくていい」と答えた. 無事に空港に着いて, まだ, 少し時間があつたので軽く食事をとることにした. 彼は, またきつと, 自分の分は自分で払うと言うはずである. だから, 店に入る前に彼に言った. 「今日は僕がご馳走するから, 気にしなくていいよ. あと 20 年くらい経ったら, 勇介くんは 30 歳を超えているよね. その時は, 僕は 70 歳の爺さんだけど, もしも, 一緒に食事をするのがあつたら, その時は, 勇介くんが払ってね.」彼はちょっと神妙な面持ちで「はい」と言った.

あと 20 年経ったら・・・. 私はその時, クモの研究ですでに博士号を取り, 30 代前半となつて, ばりばり研究活動に邁進している立派な青年に成長した彼の姿を想像していた. そんな彼に会うことはもうできない. 無念である.

しかし, 彼は, 短かったけれど濃密な人生を送つたに違いない. 熊本で半日をともに過ごした時の彼の姿を思い出しながら, そう思う. 常に今を, その瞬間を大切にしながら, 人生を積み重ねてきたに違いない. 立派な人である. 見習わなければならない.

## 関西クモ研究会 2011 年度例会の記録

2011 年 12 月 18 日 (日) に四天王寺高等学校 (大阪市天王寺区) で 2011 年度の例会が開催された。

### 役員会

例会に先立って、役員会が開かれた。出席者：田中穂積 (会長), 山野忠清 (庶務), 吉田 真 (会計), 加村隆英 (編集), 西川喜朗・船曳和代 (顧問), 関根幹夫 (会計監査)。

以下の事項が審議, 報告された。

#### (1) クモ同好会 4 団体合同合宿の件

東京クモ談話会, 中部蜘蛛懇談会, 三重クモ談話会, 関西クモ研究会の 4 団体合同の合宿が, 2012 年 7 月下旬に, 岐阜県飛騨地方で開催予定。実施内容の詳細が庶務幹事宛に連絡された段階で, 本会の会員に案内状を発送する。

#### (2) 「くものいと」の編集状況

2011 年 10 月に第 45 号を発行した。今後, ある程度原稿が集まった時点で, 随時, 発行していくこととするが, あまり期間が空きすぎることよくないので, 状況によっては, ページ数が少なくても発行することがあり得る。

#### (3) 2011 年度の行事予定

・採集会：2012 年 5 月 20 日 (日) および 2012 年 9 月 22 日 (土・祝), いずれも場所は, 京都市左京区宝ヶ池周辺。

・例会：2012 年 12 月 16 日 (日) または 12 月 23 日 (日), 場所は, 四天王寺高等学校。

#### (4) 会員数報告

現在の会員数は 84 名。

### 例会

出席者：赤松史憲, 荒川 真, 伊藤 博, 上田祐補, 加村隆英, 黒田あき, 沢田武子, 清水裕行, 関根幹夫, 田中穂積, 谷川明男, 西川喜朗, 船曳和代, 本多佳子, 宮谷篤子, 宮谷和伸, 松本吏樹郎, 村上協三, 山田廣士, 山野忠清, 吉田 真 (計 21 名)。

### 講演発表

(1) 関根幹夫：パプア (イリアンジャヤ) 報告

(2) 谷川明男・新海明：大津波とイソコモリグモ

(3) 清水裕行：ゴケグモについて

(4) 加村隆英：ワシグモ科の日本新記録属について

(5) 西川喜朗：大阪市立大学附属植物園のクモ相

なお, 講演の合間に, 役員会で審議, 報告した内容を出席者に紹介し, 了承を得た。また, 出席者全員が近況を報告した。

## 関西クモ研究会 2011 年度会計報告

収入： 2010 年度からの繰越金	148,896
会費 2011 年度前受け分繰り入れ	41,000
会費 2011 年度分入金	22,000
会費過年度分入金	15,000
受取利子	31

---

合計 226,927

支出： くものいと No. 45 表紙用紙	997
同上 発送用封筒	950
同上 郵送費	6,232
採集会・例会等の案内 郵送費	17,000
2011 年度例会お茶代	1,000
事務費	1,000
死亡退会者返金	2,000
2012 年度への繰り越し	197,748

---

合計 226,927

### 会費前受け状況

2011 年度末における会費前受け分の合計は、92,000 円である。

その内訳は次のとおり。2012 年度分 45,000 円；2013 年度分 23,000 円；2014 年度分 11,000 円；2015 年度分 7,000 円；2016 年度分 2,000 円；2017 年度分 2,000 円；2018 年度 1,000 円；2019 年度分 1,000 円。

上記のとおり、報告します。

会計幹事 吉田 真

\*\*\*\*\*

### 会計監査報告

2011 年度会計につきまして、会計幹事より提示された関係証票書類に基づき監査の結果、適正に処理されているものと認めます。

2012 年 4 月 13 日 会計監査 関根幹夫